夢の「自動セパレーター」省力化の決め手
Auto-SealEX
JDC株式会社

5月21日
2021年
金曜日
鉄鋼新聞
Japan Metal Daily

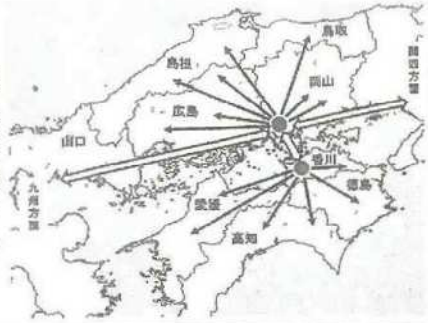
メタル便・赤田運輸産業

四国拠点開設 集配送を強化

中四国ローカル物流の支援拡充

赤田社長

鋼材小口混載の共同配送を手掛けるメタル便グループで中四国エリアを担当する赤田運輸産業（本社・岡山県笠岡市、社長・赤田健氏）は今春、香川県綾歌郡宇多津町に「メタル便四国ヤード」を開設した。関西経由での鋼材や木材などの四国への輸送や、四国内で集荷した製品の全国配送ニーズの増加が見込めると開設に踏み切った。四国に拠点を構えることで利用者の利便性が大きく向上し、きめ細かな物流網構築・サービス提供を推し進める。中四国エリア内で既存の物流網が行き届いていない四国や山陰の山間部などローカル地域向けの支援や新たなプラン作りも積極する。



中国・四国の配送イメージ

本州・四国をつなぐ瀬戸大橋の袂（たもと）部分に今年3月、四国営業所を開設。荷主の倉庫・床面積660平方㍍を借り受けて四国ヤードとした。ヤード開設は今年4月の創業60周年事業の一環に位置付ける。2・8㌧天井クレーン付き、トラック5台を配置、5人体制でスタート。早期に10台体制として集配送機能を強化したい考え。

4月からは関西発の便でも、四国地区一円で中四国のハブ拠点である本社・笠岡倉庫を経由した翌日配送を可能とし、その逆の四国発関西の翌着も実現した。ヤード開設に合わせ、四国においても本社岡山の配送・集荷地域と同程度の料金体系へと移行している。

ローカル物流は大手の路線運送会社が敬遠するビジネスだが「ラストワンマイルをつなぐ物流支援はメタル便にしかできない事業」（赤田社長）として、同社では中型トラックでは乗り切らない、大型トラックに載せるには積み荷が少ない中ロットの鋼材の積み合わせニーズにも応える。

ローカル地域の中小零細規模の鉄工所などは物流上の弱点からも仕入れ力が弱く、製作した製品を客先まで届けるにもコストが嵩むとの難点を抱えている。そこでローカルに点在する鉄工所数社が共同でメタル便のトラック1台を一定期間借り受け、各社が必要な時に利用するといったサブスクリプションサービスの構築を検討していく。山陰地区では鳥取の協力会社がM&Aで島根にも物流網を広げたことで、一層の利便性向上を見込んでいる。

2020年12月期、メタル便はコロナ禍で既存の利用数減の一方で新規客数が伸びた。来期には港町倉庫の隣地5千平方㍍の遊休地に、夜間荷捌き作業を中心とするスルー倉庫の建設を計画する。